

Think School 2020

アートと
まちづくりを
楽しく学ぶ
シンクスクール
受講生募集中





Think School 2020

クリエイティブ思考を
楽しく学ぶ入門講座

3つのミッションが シンクスクールが目指す

1. 世界を探索し、自分を探求する

世界の広さや歴史を探索すると同時に、自分の興味関心やモチベーションを深く探求します。自らの知的好奇心を引き出すことで、自由になるための手法を学びます。

2. クリエイティブ思考を育てる

アートとまちづくりを軸としたクリエイティブ思考に触れながら、身の回りの環境や状況をポジティブに変えていく発想力や創造力を育みます。

3. ネットワークを構築する

アイデアを形にすることの面白さをわかちあえる仲間や講師と出会い、ネットワークが広がるため、人生がより楽しく豊かになります。

人生100年時代といわれている今、世界がグローバルにつながり、たくさんの意見や価値観があふれるなか、わたしたちは何をたよりに自分の進む道を決めればよいのでしょうか？また、AIが台頭するこれからの社会において、ますますその人ならではの発想や創造性が求められています。しかし発想力や創造性はどのように磨けばよいのでしょうか？

私たちは、そのような問題意識を見据え、誰にでも優れた創造性があること、誰もが創造性を学ぶことができる場として、クリエイティブ思考を学びあう有志が集まるシンクスクールを開講します。シンクスクールでは、多様な価値観と膨大な歴史をもつアートとまちづくりを軸に、新しいイメージやアイデア、コンセプトを探求する創造性と、協働性や相互理解の手法、自分の考えを発見し伝える技術を学びます。シンクスクールは、楽しくワクワクする感覚を頼りに、自分らしいクリエイティブ思考を見つけることが、来るべき新しい時代の指針になると考えます。

企画コース

企画コース | 5期生 |

まちづくりとアートマネジメントの手法から企画の組み立て方を学びます。今年からカリキュラムを大幅に変更し、1年間かけてじっくりと「自身の興味関心や社会の問題」を軸に企画をねりあげます。前期は多彩な講師陣からアイデアの出し方や企画のつくり方を学び、後期は企画をブラッシュアップしながら、卒業制作展では自分の企画を自作パネルで展示します。最優秀賞受賞者は次年度、企画の実施に向けたサポートを受けることができます。



| カリキュラム

1 方向: Orientation

新しい学びの入口
まちづくりとアート

- 2020年6月6日「オリエンテーション」
白鳥健志(札幌駅前通まちづくり株式会社 代表取締役社長)
今村育子(美術家/札幌駅前通まちづくり株式会社)
高橋喜代史(美術家/一般社団法人PROJECTA ディレクター)
- 6月13日「企画をつくる STEP1/自分を知り、みんなを知る」
酒井秀治(株式会社SS計画 代表取締役/まちづくりプランナー)
- 6月27日「現代アート入門」
高橋喜代史

2 探索: Input

世界と自分を探索しながら
企画の種を見つける

- 7月4日「マイバブリックとグランドレベル」
田中元子(株式会社グランドレベル 代表取締役社長)
- 7月10日「人が足を踏み入れられる三次元のドラマ | インスタレーションについて」
三田村光土里(美術作家)
- 7月11日「企画をつくる STEP2/まちにでる、問題(違和感)を見つける」
酒井秀治
- 8月1日「企画をつくる STEP3/ファシリテーション入門」
酒井秀治
- 8月22日「10本の柱で押さえる!『プロジェクト計画書』のまとめかた」
入谷谷(株式会社ロフトワーク クリエイティブディレクター)
- 9月5日「現代美術をわかりたい人のために、あえて美術の歴史をさかのぼる講座」
蔵屋美香(東京国立近代美術館 企画課長/4月より横浜美術館 館長)
- ◎9月中旬「視察旅行」(別途料金/任意参加)
- 9月26日「企画をつくる STEP4/企画を考える」
酒井秀治
- 10月17日「企画の組み立て方」
漆崇博(一般社団法人AISプランニング 代表理事)
- 10月17日「ソーシャルアクションとしてのアート」
工藤安代(特定非営利活動法人Art & Society研究センター 代表理事)
- 10月31日「企画をつくる STEP5/プレゼンテーションを学ぶ」
小林元(IMPROVIDE クリエイティブディレクター)
- 11月7日「中間発表」
芳村直孝(札幌駅前通まちづくり株式会社 常務取締役)
細川麻沙美(札幌国際芸術祭事務局 統括マネージャー/コーディネーター)
三橋純子(北海道教育大学岩見沢校 美術文化専攻 教授)

3 探求: Output

企画を深く掘り下げ探求し
卒業展示で発表する

- 11月21日「自分だけの答えが見つかるアート思考の実践」
末永幸歩(美術教師/東京学芸大学大学院 准教授/アーティスト)
- 12月5日「企画をつくる STEP6/企画を深める」
酒井秀治
- 12月5日・26日「短編映画をつくってみよう」
高橋研太(ディレクター/監督)
常松英史(映像制作業)
- 12月26日「企画をつくる STEP7/企画を伝える」企画アドバイス
神長敬(株式会社KITABA 代表取締役社長)
- ◎2021年1月上旬「札幌国際芸術祭2020パステアール」(別途料金/任意参加)
- 1月16日「企画をつくる STEP8/卒業制作にむけてのディスカッション」
今村育子、高橋喜代史
- 1月30日「企画をつくる STEP9/予算書をつくる」
柴田尚(北海道教育大学岩見沢校 教授/NPO法人S-AIR 代表)
- 2月13日「企画をつくる STEP10/ポスターをつくる」企画アドバイス
佐々木信(クリエイティブ・ディレクター/3KG代表/
D&DEPARTMENT HOKKAIDOオーナー)
- 2月27日「合同講座/卒業制作にむけて」
今村育子、高橋喜代史
- ◎3月1~18日「個人面談」(希望者のみ)
今村育子、高橋喜代史
- 3月21~28日「卒業制作展」(3月19~20日・搬入/3月28日・搬出)
- 3月27日「企画と制作について(仮)」卒業制作展 公開プレゼンテーション&講評
服部浩之(秋田公立美術大学大学院 准教授/アートラボあいちディレクター)
- 3月28日「修了式」
芳村直孝、今村育子、高橋喜代史

講師プロフィール (2020年3月現在/敬称略)



白鳥健志 | 札幌市勤務を経て、2010年札幌駅前通まちづくり株式会社に入社。2015年から現職。公共施設(札幌駅前通地下広場、札幌市北3条広場)を活用し、事業収益をまちづくり活動に充てるなどのエリアマネジメントに取り組み、公務員時代からまちづくり活動に携わり、現在は「NPO法人えんぽ協働わっとわ〜」の顧問、「NPO法人コンカリーニョ」の理事等を務める。



今村育子 | 1978年札幌生まれ。札幌駅前通まちづくり株式会社/企画・デザイン担当、美術家。2006年より光のグラデーションをモチーフにしたインスタレーション作品を制作し、国内外で展示を行う。2011年より札幌駅前通まちづくり株式会社へ入社。主に「シンクスクール」、「Public Art Research Center [PARC]」、「さっぽろユキテラス」、「テラス計画」、「まのこエゴで研究所gurumi」等の企画や、まち会社主催事業のデザインを担当している。



高橋喜代史 | 1974年北海道生まれ。異なる文化や言語を組みあわせることで、境界や領域を考察する作品を制作している。近年は人々の関心/無関心につながる映像インスタレーションを発表。主な展覧会として、フランス、ニュージーランド、北アイルランドでの個展、カナダ、ドイツ、中国でのグループ展など札幌を拠点に国内外で活動。1995年ヤングマガジン奨励賞、2000年ビッグコミックスピリッツ努力賞、2010年JRタワーアートボックス「グランプ」。2012年より、500m美術館の展示企画やThink Schoolなどの企画運営を行う。2015年一般社団法人PROJECTA設立。



酒井秀治 | 1975年札幌生まれ。北海道大学工学研究科を修了後、2000年より東京のまちづくりコンサルタントに主に密集住宅地の再生に従事。2007年夏より、故郷に戻り、(株)ノーザンクロスにて都心の再開発や広場づくり、リノベーションによるサロン、カフェの企画・デザインコーディネートをを通じて、まちなかの再生・賑わいづくりに取り組む。2010年4月、ミツパチの目標で都市部の自然環境を見つめ直し「サッポロ・ミツパチ・プロジェクト」を設立、理事長を務める。近年は、市民力でまちの魅力を創造する「まのこデザイン部」にも関わる。一級建築士。
撮影: Rena Iwasaki



田中元子 | 人ひとりでも公共的な存在になれる「マイバブリック」という概念を提示し、まちにあまねく人々があふれる日常をつくることで、エリアの価値と幸福度の向上を目指す会社を2016年に設立。「1階づくりはまちづくり」をモットーに、建物の1階や公共空間を活用し、市民の能動性を高めるプロジェクトを行う。2018年に「喫茶ランドリー」をオープン。0歳から100歳まで多様な市民が集い、さまざまな活動に使われており、「2018グッドデザイン特別賞グッドフォーカス賞」を受賞するなど、国内外から注目を集めている。



三田村光士郎 | 愛知県生まれ。東京在住。写真や映像、言葉や日用品等の多様なメディアで構成したインスタレーションを国内外で発表。「人が足を踏み入れられるドラマ」をテーマに、フィールドワークから得られる私小説的な記憶や感傷を空間に投影する。2006年から継続中の「Art & Breakfast」では、世界各地で滞在制作をしながら人々と朝食を共にし、文化的差異を越えて共感する日常の気持ちをインスタレーションで俯瞰させる。フィンランド三都市巡回個展(2015)、ウィーン分離派館にて個展(2016)、あいちトリエンナーレ(2016)他。



入谷聡 | 静岡県生まれ。東京大学卒業後、ITベンチャー企業・NPO職員を経て、2012年よりロフトワーク京都に合流。クリエイティブディレクターとして、企業や大学の公式Webサイト構築を多数手掛ける。2014年、プロジェクトマネジメントの国際資格PMP®を取得。無数のステークホルダーからインスピレーションを要望を引き出し、同時並走の大規模プロジェクトを軟着陸に導く。NPO法人京田辺シユアチア大学理事。京田辺市在住。一児の父。
https://loftwork.com/jp/people/satoshi_iriwano



蔵屋美香 | 千葉県生まれ。千葉大学大学院を修了。東京国立近代美術館企画課長を経て横浜美術館館長。おもな展覧会に「文化を待ちながらー映像、60年代から今日へ」(2009年、東京国立近代美術館、三輪健と共同キュレーション)、「めぐ絵画ー日本のヌード 1880-1945」(2011-12年、同)、第55回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 日本館キュレーション(2013年、アーティスト:田中功起)、「高松次郎ミステリース」(2014-15年、同、保坂健二朗・樹田倫夫と共同キュレーション)、「藤田嗣治、全所蔵作品展示。」(2015年、同)、「熊谷守一:生きるよろこび」(2017-18年、同)、「悪魔:窓をめぐるアートと建築の旅」(2019-20年、同)など。撮影:森本菜穂子



漆原博 | 1977年北海道生まれ。一般社団法人AISプランニング代表理事。北海道各地でのアーティスト・イン・スクール事業のコーディネートを中心に、香川県観音寺市におけるまちづくり事業、トヨタ子どもアーティストの出会い事業、北海道コミュニケーション教育ネットなど芸術文化を媒介した事業運営や、コミュニティスペースオオベカ、さっぽろ天神山アーツスタジオ(札幌市)、SIAFラボ(札幌国際芸術祭)の運営などを担っている。



工藤安代 | 東京生まれ。多摩美術大学卒業、南カルフォルニア大学大学院、埼玉大学大学院文化科学研究科博士後期課程を修了。民間企業にて公共・民間組織におけるアート・コミュニケーション事業に携わった後、社会・地域における芸術文化活動の研究活動に取り組み、2009年現法人を設立。プロジェクト型アートのアーカイブ活動や都市空間を活用したプロジェクト等をおこなう。近年は「ソーシヤリー・エンゲイジド・アート」に関する研究会や展覧会等を主催。主な著作に「パブリックアート政策」、翻訳書『ソーシヤリー・エンゲイジド・アート入門』、編集『ソーシヤリー・エンゲイジド・アートの系譜・理論・実践』等がある。http://www.art-society.com



小林元 | 1983年札幌生まれ。2007年インプロバイド設立。事業の戦略立案からCI/VI、パッケージデザイン、広告、ウェブデザインまで幅広いコミュニケーション分野で活動。受賞歴は、ONESHOW銅賞、DesignerAsia Merit賞、日本パッケージデザイン大賞銀賞、グッドデザイン賞など、札幌市立大学非常勤講師。



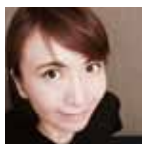
芳村直孝 | 1959年生まれ。北海道大学法学部卒業後、札幌市役所勤務。都心まちづくり推進室勤務時代に、札幌駅前通まちづくり株式会社設立及び札幌駅前通地下歩行空間活用による収益をエリアマネジメント活動費に充てる仕組みづくりに携わる。その後、PMF(パシフィック・ミュージック・フェスティバル)事務局長などを経た後、札幌市を早期退職し、2018年に札幌駅前通まちづくり株式会社へ入社。札幌駅前通地区のビジネスプランの「健康づくり」や、地下歩行空間を活用した帰宅困難者対策などの「エリア防災力の向上」などを中心に、札幌駅前通地区のエリアマネジメントに取り組んでいる。



細川麻沙美 | 1977年東京生まれ。大学卒業後、テレビ局での展覧会制作・運営を経て、2008年より、企画・展示業務を中心にフェスティバル事務局に従事。2013年に独立。これまでに「イサム・ノグチ展」(2005年、札幌芸術の森美術館、東京都現代美術館)、「スーパーエッシャー展」(2006年、Bunkamuraザ・ミュージアム)、「文化庁メディア芸術祭」(2008年〜)、「札幌国際芸術祭」(2014年〜、札幌市)、「メディアアートの輪廻転生」(2018年、山口情報芸術センター[YCAM])等に関わる。現在、札幌国際芸術祭事務局統括マネージャー、札幌大大学非常勤講師。
撮影: 藤倉翼



三橋純子 | 東京都出身。東京都写真美術展、東京都現代美術館等で学芸員として展覧会や美術教育プログラムを多数企画実施。2006年より北海道教育大学岩見沢校にてアートマネジメントや現代美術論、博物館学芸員資格科目を担当。道の美術館と連携した展示企画やワークショップ、コンサート、地域におけるアートプロジェクト(川俣正三展企画プロジェクト)などを展開している。H28年からは川俣正三:岩見沢プロジェクトやアールブリュットの芸術活動支援など、岩見沢市内の活動にも積極的に関わっている。共著に「日本写真家事典」「美術教育ハンドブック」、編者に「芸術・スポーツ化学研究」全3巻など。



永末幸歩 | 東京都出身。武蔵野美術大学造形学部卒業、東京学芸大学大学院教育学研究科(美術教育)修士。東京学芸大学研究員として美術教育の研究に励む一方、中学・高校の美術教師として教壇に立つ。「絵を描く」「ものをつくる」「美術史の知識を得る」といった知識・技術偏重型的美術教育に問題意識を持ち、アートを通して「もの」の見方を広げることに力を注いだユニークな授業を展開。生徒たちからは「美術がこんなに楽しかったんだ」「物事を考えるための基本がわかる授業」と大きな反響を得ている。著書に「自分だけの答えが見つかる!13歳からのアート思考」「ダイヤモンド社、2020年)がある。アート思考の研修・ワークショップ・講演会等の講師も行っている。



高橋研次 | 1967年北海道砂川市出身。東北大学卒業後、松竹KYOTO映画塾に入塾。助監督や舞台監督助手の仕事に従事。その後、地元北海道に戻り、企業VP・地方自治体VP・テレビ番組の仕事など、さまざまな現場で映画制作を行っている。近年の映画作品として、インディペンデントながら札幌、東京、九州で上映した「えんえん」シリーズを脚本・監督する。



常松英史 | 1983年札幌生まれ。主にフリーランスで企画〜撮影〜編集のワンオペレーション映像制作をする傍ら、短編映画の制作や編集をしている。札幌国際短編映画祭 事務局に所属し、映画祭の告知動画制作や運営サポート、酔っ払いプログラム企画担当している。短編映画監督作品「猫語り」札幌国際短編映画祭2014年北海道最優秀作品賞受賞。



神長敬 | 1966年生まれ。宮城県出身。札幌市のモエレ沼公園や石山緑地などの公園設計、新型低床車庫ボラリスのデザイン、仁木町のワイナリー計画など、ランドスケープ、フロアダック、建築と幅広くデザイン・プロジェクトにかかわる。被災地、東松島市では、支えあふ暮らしの実現に向けたコレクション・ハウス設計に参画。そのほか、まちづくりへの市民参加のプロセス・プランニング、地域計画や行政計画に関するプロジェクトも多い。北海道地域づくりアドバイザー、技術士(建設部門) 都市及び地方計画)。



柴田尚 | INPO法人S-AIR(エスエア)代表。今年21年目を迎え、36カ国101名の滞在制作に関わってきた。NPO法人S-AIRは、2008年、国際交流基金札幌市民賞を受賞。2013年度より、北海道教育大学岩見沢校教授となる。S-AIRでは札幌を制作場所としたビジュアルアーツが中心だが、大学では空知のワイナリーを舞台としたヌーヴォーシールの滞在制作「空知遊覧」(2016〜8)なども企画。共著に「指定管理者制度で何が変わるのか」(水曜社)「産校を活用した芸術文化施設による地域文化振興の基本調査」(共同文化社)がある。2016年、北海道文化奨励賞受賞。



佐々木信 | 1974年北海道生まれ。デザイナー。大学在学中に、札幌のモニター・シアターキーンに映写技師として勤務。1996年に渡英し、翌年、一文無しで帰国。すぐに札幌の編集プロダクションでグラフィックデザイナーとして仕事を始め、2001年に独立。3KGを設立し、札幌市交通局のICカード「SAPICA」の企画や、札幌市のシアターロモート「SAPP.RO」のマークをデザイン、AIRDOのスコット「ペアド」のデザインを手がける。2007年にD&DEPARTMENT HOKKAIDO by 3KGをオープンしたほか、2010年にシヤマ大学の姉妹校として開設された札幌オドリ大学の創設に携わり、毎月「庭しんぶん」を発行している。



服部浩之 | 1978年生まれ。早稲田大学大学院修了(建築学)。青森公立大学国際芸術センター青森[ACAC]学芸員を経て、2017年より秋田公立美術大学大学院准教授。アジア圏を中心に、展覧会やプロジェクト、リサーチ活動を展開。近年の共同企画に、十和田入瀬芸術祭(2013年)、「Media/Art Kitchen」(ジャナルタクアラルラング・マニラ、パナコ、青森、2013年-2014年)、あいちトリエンナーレ2016(愛知県美術館ほか)、「ESCAPE from the SEA」(マレーシア国立美術館、Art Printing Works、2017年)、「近くへの遠回り」(ウィンドリウム現代美術館センター、2018年)などがある。第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館展示「Cosmo-Eggs」宇宙の卵」(2019年)キュレーター。

制作コース

制作コース | 4期生 |

アーティストとキュレーターから作品制作とプレゼンテーションの基礎を学びます。前期は絵画、立体、写真、映像など複数の表現手段の課題に取り組み、自身の興味関心を探ります。後期は講師や仲間たちから様々な感想やアドバイスをもらうことで作品を深め、卒業制作展で発表します。最優秀賞受賞者は次年度、企画開催のサポートを受けることができます。



カリキュラム

1 方向: Orientation

新しい学びの入口
アートとまちづくり

●2020年6月6日「オリエンテーション」
白鳥健志(札幌駅前通まちづくり株式会社 代表取締役社長)
今村育子(美術家/札幌駅前通まちづくり株式会社)
高橋喜代史(美術家/一般社団法人PROJECTA ディレクター)

●6月13日「絵画論①」レクチャー」
山本雄基(画家)

●6月27日「現代アート入門」
高橋喜代史

2 探索: Input

様々な演習や課題を通して
多様な表現手法を知る

●7月4日「絵画論②課題の講評」
山本雄基

●7月4日「マイブリックとグランドレベル」
田中元子(株式会社グランドレベル 代表取締役社長)

●7月10日「人が足を踏み入れられる三次元のドラマ」インスタレーションについて」

●7月11日「空間を味方にするインスタレーション」インスタレーション実習」
三田村光土里(美術作家)

●8月1日「写真論」課題の講評」
露口啓二(写真家)

●8月22日「映像論」課題の講評」
伊藤隆介(映像作家/美術作家)

●9月5日「現代美術をわりたい人のために、あえて美術の歴史をさかのぼる講座」
蔵屋美香(東京国立近代美術館 企画課長/4月より横浜美術館 館長)

◎9月中旬「視察旅行」(別途料金/任意参加)

●9月26日「天才ハイスクール!!!!」
卯城竜太(Chim ↑ Pom)

●10月17日「ソーシャルアクションとしてのアート」
工藤安代(特定非営利活動法人Art & Society研究センター 代表理事)

●10月31日「卒業制作にむけて」
今村育子、高橋喜代史

●11月7日「卒業制作のプラン発表」
磯崎道佳(アーティスト)
川上太雅(札幌北商標法律事務所/ salon cojica代表)

●11月21日「自分だけの答えが見つかるアート思考の実践」
末永幸歩(美術教師/東京学芸大学研究員/アーティスト)

3 探求: Output

自分自身と向き合い
自分ならではの作品を制作し発表する

●12月5日「短編映画をつくってみよう①」プラン編

●12月26日「短編映画をつくってみよう②」制作編
高橋研太(ディレクター/監督)
常松英史(映像制作業)

◎2021年1月上旬「札幌国際芸術祭2020パステア」(別途料金/任意参加)

●1月16日「作品について」
鈴木涼子(美術家)

●1月30日「卒業制作にむけて」
今村育子、高橋喜代史

●2月13日「ポスターをつくる」
佐々木信(クリエイティブ・ディレクター/3KG代表/
D&DEPARTMENT HOKKAIDOオーナー)

●2月13日「ポートフォリオをつくる」
風間天心(美術家/僧侶)

●2月27日「合同講座/卒業制作にむけて」
今村育子、高橋喜代史

○3月1~18日「個人面談」(希望者のみ)
今村育子、高橋喜代史

●3月21~28日「卒業制作展」(3月19~20日・搬入/3月28日・搬出)

●3月27日「企画と制作について(仮)」卒業制作展公開プレゼンテーション&講評」
服部浩之(秋田公立美術大学大学院 准教授/アートラボあいちディレクター)

●3月28日「修了式」
芳村直孝(札幌駅前通まちづくり株式会社 常務取締役)、
今村育子、高橋喜代史

講師プロフィール (2020年3月現在/敬称略)



白鳥健志 | 札幌市勤務を経て、2010年札幌駅前通まちづくり株式会社に入社。2015年から現職。公共施設(札幌駅前通地下広場、札幌市北3条広場)を活用し、事業収益をまちづくり活動に充てるなどのエリアマネジメントに取り組み、公務員時代からまちづくり活動に携わり、現在は「NPO法人えつて協働ねとわーく」の顧問、「NPO法人コンカリーニョ」の理事等を務める。



今村育子 | 1978年札幌生まれ。札幌駅前通まちづくり株式会社/企画・デザイン担当。美術家。2006年よりインスタレーション作品を制作し、国内外で展示を行う。2011年より札幌駅前通まちづくり株式会社へ入社し、主に「シンクスクール」、「Public Art Research Center [PARC]」、「さっぽろユキテラス」、「テラス計画」等の企画や、まち会社主催事業のデザインを担当している。



高橋喜代史 | 1974年北海道生まれ。異なる文化や言語を組み合わせることで、境界や領域を考察する作品を制作している。近年は人々の関心/無関心につながる映像インスタレーションを発表。主な展覧会として、フランス、ニュージーランド、北アイルランドでの個展、カナダ、ドイツ、中国でのグループ展など札幌を拠点に国内外で活動。1995年ヤングマガジン奨励賞、2000年ビッグコミックスピリッツ努力賞、2010年JRタワー「アートボックス」グランプリ。2012年より、500m美術館の展示企画やThink Schoolなどの企画運営を行う。2015年一般社団法人PROJECTA設立。



山本雄基 | 1981年帯広市生まれ。画家。2007年北海道教育大学大学院修了。2012-13年札幌市文化芸術振興助成金を中心に滞在。2017年-naebono art studio共同運営。現在札幌にて。第30回ホルベンスカラシップ奨学生(2015年)、第5回大黒屋現代アート公募展大賞受賞(板室温泉大黒屋/2010年)。主な展覧会に、山本雄基展(板室温泉大黒屋/2020年)、Flatten Image -山本雄基・浦川大志展(ギャラリー門馬/2019年)タイトル無し、あるいは仮説として等価と差異についての絵画(Mikiko Sato Gallery/2018年)、VOCA展2014(上野の森美術館/2014年)、道東アートファイル2013(帯広美術館/2013年)など。撮影:我妻直樹



田中元子 | 人ひとりでも公共的な存在になれる「マイバブリック」という概念を提示し、まちなあまねく人々があふれる日常をつくることで、エリアの価値と幸福度の向上を目指す会社を2016年に設立。「1階つくりはまちづくり」をモットーに、建物の1階や公共空間を活用し、市民の参加性を高めるプロジェクトを行う。2018年に「喫茶ランドリ」をオープン。0歳から100歳まで多様な市民が集い、さまざまな活動が催されており、「2018グッドデザイン賞グッドフォーカス賞」を受賞するなど、国内外から注目を集めている。



三田村光士郎 | 愛知県生まれ。東京在住。写真や映像、言葉や日用品等の多様なメディアで構成したインスタレーションを国内外で発表。「人が足を踏み入れたら、ドラマ」をテーマに、フィールドワークから得られる私小説的な追憶や感情を空間に投影する。2006年から継続中の「Art & Breakfast」では、世界各地で滞在制作をしながら人々と朝食を共にし、文化的差異を越えて共感する日常の気づきをインスタレーションで俯瞰させる。フィンランド3都市巡回個展(2015)、ウィーン分離派館にて個展(2016)、あいちトリエンナーレ(2016)他。



露口啓二 | 1950年徳島県生まれ。1990年代末より、北海道の風景と歴史に着目した写真の発表を始める。1999年より撮影が開始された「地名」シリーズは、バリ・ローマでの発表の後、2004年「ノンセクト」ラディカル-現代の写真III-展(横浜美術館・横浜)に出展。2012年(Natural History(倉石信乃との共作))を「SNOWScape MOERRE-再生する風景」展に出品(モエレ沼公園ギャラリー・札幌)、2013年「アクアアイン」(芸術の森美術館)などに参加。2014年第一回札幌国際芸術祭、2018年「今も揺れている」展(横浜市民ギャラリーあざみ野)出品。同年「さかみはら賞受賞」展、2017年写真集「自然史」、2018年に写真集「地名」刊行。



伊藤隆介 | 札幌生まれ。東京造形大学卒業、シゴク美術館附属美術大学大学院修了。実験映画、ビデオ・インスタレーションなどを中心に制作や発表を行っている。近年の主な展覧会に個展「天神洋画劇場」(三善所アリアム)、グループ展「ジオラマとパノラマ -DivergingRealities」(京都府センター)、「高松コンテナーアート・ビジュアルvol.05 見えてる風景/見えない風景」(高松市美術館)、「美少女の美術史」(北師美術館・台湾)、「The Remains of Cinema」(グラーツ美術・メディア芸術館、オーストリア)、「Re:Quest-1970年代以降の日本現代美術」(ソウル大学校美術館、韓国)、「札幌国際芸術祭2017」(モエレ公園)など。



藤屋美香 | 千葉県生まれ。千葉大学大学院修了。東京国立近代美術館企画課長を経て横浜美術館館長。おもな展覧会に「メディアを待ちながら-映像、60年代から今日へ」(2009年、東京国立近代美術館、三輪健二と共同キュレーション)、「ぬく絵画-日本のモード 1880-1945」(2011-12年、同)、第55回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 日本館キュレーション(2013年、アーティスト:田中功起)、「高松次郎ミステリーズ」(2014-15年、同、保坂健二朗・樹田倫広と共同キュレーション)、「藤田嗣治、全所蔵作品展」(2015年、同)、「熊谷守一:生きているよび」(2017-18年、同)、「窓展:窓をめぐるアートと建築の旅」(2019-20年、同)など。撮影:森本聖穂子



卯城竜太 | Chim | Pomは卯城竜太・林靖高・エイビ・岡田将孝・福岡求・水野俊紀が、2005年に東京で結成した、アジアを代表するアーティスト集団。時代のリアルを追究し、現代社会に全力で介入したメッセージ性の強い作品を次々と発表。福島、福島の帰還困難区域内で、封鎖が解除されるまで「行くことができない」国際展「Don't Follow the Wind」や、2018年には歌舞伎町の建て壊されるビルで制作したプロジェクト「じんげんレストラン」を発表。現在は新宿の「ホワイトハウス」を拠点に活動。そのプロジェクトベースの作品はグッゲンハイム美術館、ポンピドゥセンターなどにコレクションされ、時代を切り開く活動が期待される。著書多数。



工藤安代 | 東京生まれ。多摩美術大学卒業、南カルフォルニア大学大学院、埼玉大学大学院文化科学研究科博士後課程修了。民間企業にて公共・民間組織におけるアート・コミッション事業に携わった後、社会・地域における芸術文化活動の研究活動に取り組み、2009年現法人を設立。プロジェクト型アートのアーカイブ活動や都市空間を活用したプロジェクト等をおこなう。近年はソーシャリー・エンゲイジド・アートに関する研究会や展覧会等を主催。主な著作に『パブリック・アート政策』、翻訳書『ソーシャリー・エンゲイジド・アート入門』、編集書『ソーシャリー・エンゲイジド・アートの系譜:理論・実践』等がある。<http://www.art-society.com>



磯崎道佳 | 様々な表現形態を通し、誰もが持つ好奇心を引き出すことで、新しい視点を発見する場を制作している。1968年水戸市生まれ。1996年多摩美術大学大学院修了。2001年P.S.I./MoMAインターナショナルスタジオプログラムに参加(NY)。現在北海道在住。主なプロジェクトに、面識のない若手同士による手紙の交換を目的とした「パラシュートとマキオ」(2002-)。雑巾で等身大の動物を制作する「ぞうさんぞうプロジェクト」(2004-)。参加者と巨大バルーンを協働制作する「ドーム/DOMEプロジェクト」(2005-)。「笑う机」(2012-)など。



川上大雅 | 札幌市内にて、札幌北商標法律事務所とギャラリーsalon cojicaを運営。弁護士・弁理士。様々な側面から創作を支え、法律と美術の間で活動を続けている。特技はスキー。salon cojicaのほかの近年の活動として、NMAライブ/ビデオアーカイブ(2017)、中崎透 x gelida x スキ「シンブルを追いかけて」(2017)、なえぼのアートスタジオ(2017-)、札幌(AM2018-)など。



末永幸歩 | 東京都出身。武蔵野美術大学造形学部卒業。東京学芸大学大学院教育科学研究科(美術教育)修士。東京学芸大学研究員として美術教育の研究に励む一方、中学・高校の美術教師として教壇に立つ。「絵を描く」「ものをつくる」「美術史の知識を得る」といった知識・技術偏重型の美術教育の問題意識を持ち、アートを通して「ものの見方を広げる」ことに力を置いたユークな授業を展開。生徒たちからは「美術がこんなに面白かったなんて」「物事を考えるための基本がわかる授業」大きな反響を得ている。著書に「自分だけの答えが見つかる」13歳からのアート思考(ダイアモンド社、2020年)がある。アート思考の研修・ワークショップ・講演会等の講師も行っている。



高橋研太 | 1967年北海道砂川市出身。東北大学卒業後、松竹KYOTO映画塾に入塾。助監督や舞台監督助手の仕事に従事。その後、地元北海道にて、企業VP・地方自治体VP・テレビ番組のディレクターなどの仕事をしながら映画制作を行っている。近年の映画作品として、インディペンデントながら札幌、東京、九州で上映した「えんえん」シリーズを脚本・監督する。



常松英史 | 1983年札幌生まれ。主にアリアランスで企画〜撮影〜編集のワンオペレーション映像制作する傍ら、短編映画の制作や編集をしている。札幌国際短編映画祭事務局に所属して、映画祭の予自働制作や運営補佐、静く眠るプログラム等に担当している。短編映画監督作品「狸語り」札幌国際短編映画祭2014年北海道最優秀作品賞受賞。



鈴木涼子 | 北海道札幌市在住。ジェンダーをテーマに、人間の欲望や社会の歪みに焦点をあてた作品を制作している。2007年文化庁の新進芸術家海外研修員としてドイツにて1年間研修。2004年上海ビエンナーレ(上海美術館)、2007年「Global Feminisms」(アブリュン美術館)、2013年「Body, Being Here」(テグ美術館)、2018年「The Women Behind」(Museum on the Seam/エルサレム)などの国際展にも多数参加。第20回東京賞特別賞、第15回道銀芸術文化奨励賞受賞、北海道近代美術館、東京都写真美術館、上海美術館、他、多くの美術館に作品が収蔵されている。



佐々木信 | 1974年北海道生まれ。デザイナー。大学在学中に、札幌のミニシアター・シアターキに映写技師として勤務。1996年に渡英し、翌年、一文無しで帰国。すぐさま札幌の編集プロダクションでグラフィックデザイナーとして仕事を始め、2001年に独立。3KGを設立し、札幌市交通局のICカードSAPICAの企画や、札幌市のシアター・ロード「SAPPORO」のマークをデザイン。AIRDOのマスコット「ペアドロ」のデザイナーも手がける。2007年にD&DEPARTMENT HOKKAIDO by 3KGをオープンしたほか、2010年にシヤ大学の姉妹校として開設された札幌オオドリ大学の創設に携わる。毎月「じんぶん」を発行している。



風岡天心 | 1979年東川町生まれ。2008年、武蔵野美術大学大学院を修了後、大本山永平寺で修行。2011年、同大学バウ賞により「バウ国際芸術都市」に潜在、宗教と芸術の相互作用を求め国内外で多様な活動を続けている。2015年、「Tokyo Midtown Award 2015」優秀賞、「LUMINE meets ART AWARD 2015」ウインドウ部門 入賞、2016年、「JR TOWER ART BOX AWARD 2016」グランプリ、「第5回 札幌500m美術館賞」グランプリ。2019年、「岡本太郎現代芸術賞」岡本敏子賞。<http://www.tengshing-k.com>



服部浩之 | 1978年生まれ。早稲田大学大学院修了(建築学)、青森公立大学国際芸術センター青森「ACAC」学芸員を経て、2017年より秋田公立美術大学大学院准教授。アニア館を中心に、展覧会やプロジェクト、リサーチ活動を展開。近年の共同企画に、十和田県入瀬芸術祭(2013年)、「Media/Art Kitchen」(ジャコブス、クアラルンプール、マニラ、バンコク、青森、2013年-2014年)、あいちトリエンナーレ2016(愛知県美術館ほか)、「ESCAPE from the SEA」(マレーシア)国立美術館、Art Printing Works, 2017年、「近くへの遠回り」(ヴァンフル)現代美術センター、2018年などがある。第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際芸術展日本館展示「Cosmo-Eggs」宇宙の卵(2019年)キュレーター。



芳村直孝 | 1959年生まれ。北海道大学法学部卒業後、札幌市役所勤務。都心まちづくり推進室勤務時代に、札幌駅前通まちづくり株式会社設立及び札幌駅前通地下歩行空間活用による収益をエリアマネジメント活動費に充当する仕組みづくりに携わる。その後、PMF(パシフィック・ミュージック・フェスティバル)事務局長などを経た後、札幌市早期退職し、2018年に札幌駅前通まちづくり株式会社に入社。札幌駅前通地区のビジネスパーソンの「健康づくり」や、地下歩行空間を活用した帰宅困難者対策などの「エリア防災力の向上」などを中心に、札幌駅前通地区のエリアマネジメントに取り組んでいる。

※講師やカリキュラムは変更になる場合がございます

シンクスクールのプログラム

異なる要素を組み合わせたプログラム

異なる要素を組み合わせたプログラムが、シンクスクールの特徴です。まちづくり×アート、企画×制作、インプット×アウトプットという、異なる知と知を組み合わせ、多様な背景をもつ仲間とアイデアを交換する学び合いの場を形成しています。

まちづくり × アート

まちづくりの協働性×アートの創造性をかけあわせることで、これまでの企画立案や作品制作とは異なるプロセスで、企画や作品を考える手法を学びます。

企画 × 制作

企画コースと制作コースの合同講座では、ダイアログ(対話)を大切にしています。企画と制作の異なる立ち位置からフィードバックをもらうことで、物事を捉える視界が広がります。

インプット × アウトプット

カリキュラムは「オリエンテーション」→「探索:インプット」→「探求:アウトプット」と3つのステップで進み、授業内でもインプット型学習のレクチャーと、アウトプット型学習のワークショップ、ディスカッション、ファシリテーション、プレゼンテーションなどを組み合わせて学びます。またスタジオヴィジットや研修ツアー、卒業展示など外での活動の機会を豊富に設けています。



様々な課外活動



バスツアー (任意参加)

実物にふれ体験することも重要と考え、時には教室の外に飛び出していきます。これまでに、国際芸術祭や美術館、先進的なまちづくりを行う街、アーティストのスタジオなどを視察見学しました。いつもと違う環境とダイレクトに出会えることや、生徒同士の交流も生まれることから大変好評の授業です。



企画・制作合同合宿 (任意参加)

2泊3日の企画・制作コース合同合宿を2017年はニセコ、2018年は定山溪、2019年は由仁町で行いました。個人面談を中心に、自身のやりたいことや興味のあることを時間をかけて探ります。企画と制作が合同でディスカッションする時間や交流会も大いに盛り上がりました。
※現在調整中につき、実施しない場合もございます。



研修旅行 (任意参加)

世界の動向を知り、より広い視野を獲得するために、国際芸術展や他都市のまちづくり会社へ視察を行っています。2016年は「あいちトリエンナーレ」や「港まちづくり協議会」を訪問しました。2017年は、10年に1度開催のドイツ・ミュンスター「彫刻プロジェクト」と5年に1度開催のカッセル「ドクメンタ」を見学。2018年は韓国の「光州ビエンナーレ」、2019年は「あいちトリエンナーレ」「岡山芸術交流」など、現地の方に案内してもらいながら、それぞれの国、街、美術、建築、食文化などに触れる貴重な機会です。



卒業生の 多様な活動

シンクスクール卒業生は、デザイナーや落語家になるための上京、海外のアートスクールへの入学、一般社団法人PROJECTAや札幌駅前通まちづくり会社への就職、札幌市内のまちづくり会社でのアルバイトなど様々な変化や飛躍をしています。また第1期修生の荒岡信孝さんが、シンクスクール講師に物件紹介したことをきっかけに、アーティストが中心になって運営する集合アトリエ「なえぼのアトスタジオ」が誕生しました。今では、札幌のオルタナティブなアートシーンの重要な拠点の1つとなっています。



荒岡信孝(企画コース1期最年長卒業生)
 不動産関係の仕事をしていて、アートとは無関係でしたが、何となくチカホでフライヤーを見て即入学し、そこでいろいろな気づき、刺激、楽しさを感じました。卒業企画は「アートを使ったシニアの社会貢献」です。その後アーティストの方たちとの協力により築50年の古い倉庫を使ったシェアアトリエ(なえぼのアトスタジオ)を運営することとなりました。現在は、アートをシニアの方たちに少しずつ広める活動をしています。



荒井純一(企画コース3期卒業生)
 シンクスクールに入って、自分の中にない知識について考えたり創造したり 社会人になってから仕事とスクールの両立は新鮮でした。自主的に学ぶことで身に付くスピードも早かったです。卒業後はスクールで出会った人脈、知識は財産となり、前期のグループ企画、後期の卒業企画は2020年以降実施に向けて活動しています。



岩崎麗奈(制作コース1・2期卒業生)
 シンクスクールの受講を考えていた頃、カリキュラムをざっと見てなんだかわからないけどきくと濃そうだな(でもついていけるかな...)と、えいっと飛び込んでみることにしました。やっぱり濃かった、シンクスクール。覚悟があれば、人生変わるぐらいの衝撃がある場所です。



和島ひかり(企画コース3期/制作コース2・3期卒業生)
 シンクスクールに入ってから課題制作時に限らずどんなことに対しても「私が本当に思っていることは？」という問いをもつようになり、考えるほどさらに生まれてくる問いに苦しみつつも、新たな発見やその問いを共に考えてくれる仲間との繋がりに喜びを感じました。



渡辺ひろみ(企画コース2期卒業生)
 好きなだけではアートの楽しさを伝えるのは難しい。好きを一緒に楽しめる人を増やせるようになりたいと、受講しました。たくさんの仲間もでき、スクールの1年限りではなく、その後のやりたいことを見つけるきっかけとなり良かったです。



| シンクスクールってどんな学校？

まちづくりと現代アートを学ぶシンクスクールは、どのような考えのもと生まれたのか？シンクスクールを主催する札幌駅前通まちづくり株式会社 今村育子にインタビューしました。

—今村さんご自身がアーティストで、札幌駅前通まちづくり会社で働かれています。どうしてシンクスクールを始めようと思ったのか聞かせてください。

今村：2011年の5月からまちづくり会社で働くことになって、ちょっとずつ企画をやらせてもらえるようになっていきました。でも企画は1人で出来ないし、一緒にまちを面白くしてくれる仲間を見つけない！というモチベーションから「スクールをやろう」と思いました。



—まちづくりとアートという2つの視点でシンクスクールを始めたのはどうしてでしょうか。

今村：シンクスクールが大切にしていることは、アートの多様性と寛容性です。アートっていったときに、絵画や彫刻、子供が粘土をこねていたり、現代アートなどいろいろなものを想像すると思うのです。アートのイメージは曖昧で、実はまちづくりもそんなに形がなくて、なんだかはっきりしない。

—アートとまちづくりにはそういう共通点があるのですね。

今村：私は、はっきりしていないからこそ、みんなで考えて、新しいものを作っていく可能性があると思っています。



—シンクスクールは、プレゼンや展示、ディスカッションなど、アウトプットの場がたくさんあって、言葉にする機会があるのがいいなと思いました。

今村：言語化って私も苦手なのですが、話せないと伝わらないからなんとかしたい。だから学びの場で練習していく事が重要だと思いカリキュラムを組んでいます。



—シンクスクールの講師の方も生徒も本当に色々な人がいて、同じ問題でもアプローチの仕方は色々ですね。

今村：講師の方もみんな違って。アーティストやプランナー、キュレーター、コーディネーターやディレクターなど、本当に沢山の職種や手法があるので、シンクスクールの1年間で自分がどの役割、どの表現方法が向いているか見極めてほしい。

—シンクスクールは、自分を見つめ直す時間という一面もあるんですね。

今村：例えば、会社でプロジェクトをやるときに「あの時のワークショップをやってみるか」とか、自分の子どものために一緒に何かやってみるなど、自分の仕事や生活に学んだことを持ち込む。まずはそこから考えています。



—全国のまちづくりやアートの第一線で活躍する方々に講師として来てもらっていますが、直に話を聞けたりアドバイスをもらえたりするのは、地方都市の札幌では大変貴重な機会だと思います。

今村：東京じゃないとアートやまちづくりを勉強できない、知ることができないのは違うと思っています。いくつになってもどこにいても人生の中で勉強したいなあって思う時ってありますよね。でも職場や家庭に固定されて、なかなか動けない人も。みんな色々な理由で札幌、北海道、それぞれの場にいると思うのです。「じゃあ今から勉強したいけど、どこにいったらいいの？」という北海道で暮らす人たちに、「このスクール届けっ」と思っています。

—1年間、いろいろな人に会って話を聞けば、変化していきますよね。

今村：私がシンクスクールですごく良いなと思っていることは、スクール生がみんなで「なんでもないことを話している」ことなのです。2017年度から企画コースの個人課題は「クリエイティブの力で社

会や自分の問題に取り組むプランを考える」なんですが、ジェンダー、コンプレックス、社会問題、コミュニケーション、就職とか、それぞれが自分のもっている問題意識をみんなで共有しながら熱心に話しています。そういう話を日常的にすることってなかなかないですよ。普段の生活の中で「時間ってさ」とか抽象的な話にはなかなかならない。だからこそ、それについて真剣に話している姿と、意見を聞いているだけで「これは凄い時間だぞ」と思っています。このまま、ずっとダラダラと話してほしい(笑)。



—最後に、これからシンクスクールどうなっていけばいいとお考えですか。

今村：シンクスクールは、アートやまちづくりを知りたい、マネジメントやまちづくりをやりたい、作品を制作したいという人たちに向けてのスクールですが、自分の人生をもっと面白くしたいと思っている人にもよいのかなと思います。企画や制作を考えるプロセスは、自分の人生を考えるプロセスに似ています。多様な生き方をする人の話を聞いて、自分の人生について根源的に考えることができれば、様々なことに応用できると思います。自分の人生や、やりたいことに疑問を持っている人、なんかちょっとつまづいてる人とか、そういうことを考えている人に来てもらえればと思っています。私自身も毎年どんな方々に出会えるのか、そしてどんな企画や作品を見ることが出来るのか、とても楽しみにしています。



今村育子：2006年より美術家として、光のグラデーションをモチーフにインスタレーション作品を制作。2011年より札幌駅前通まちづくり(株)勤務。主に「シンクスクール」「PARC」「さっぽろユキテラス」「テラス計画」「まちの子そだて研究所gurumi」の企画や、まちづくり会社主催事業のデザインを担当する。

インタビュー：佐々木蓉子

募集要項

シンクスクールは、北海道初となる「アート」と「まちづくり」を学べる学校として2016年に開校し、2020年で5年目を迎えます。芸大や美大、現代美術館のない北海道で、いつでも誰でも現代アートとまちづくりが学べる環境を作り、芸術文化およびまちづくり活動を推進していくことを目的に設立しました。シンクスクールは、幅広い年齢と職業の人が通う学校です。異なる価値観や背景を持った人たちが集うことで、新たなアイデアやイノベーションが生まれる場となることを目指しています。講師や仲間とともにアイデアをカタチにする体験をし、自身の世界を広げていくことが、自らの手で豊かな社会や環境に変えていく一歩となるでしょう。

| | |
|-------|---|
| 期 間 | 2020年6月6日(土)～2021年3月28日(日)[32コマ] ※予定 |
| 日 時 | 月2～3回 土曜 12:00-14:00 or 15:00-17:00 ※講座によって変更あり |
| 定 員 | 各コース先着20名 |
| 一般料金 | 128,000円(税別) [各コース先着20名] |
| 学生料金 | 64,000円(税別) [各コース先着5名] |
| 入 学 金 | 10,000円(税別) ※新規受講生のみ |
| 募集締切 | 2020年5月30日(土) ※定員に達した時点で締め切り |
| 主 催 | 札幌駅前通まちづくり株式会社 www.sapporoekimae-management.jp |

特典

- ビデオ補講制度 | 欠席時、講座の様子を映像で視聴することができます。(一部講座を除く)
- 体験受講制度 | 企画コース受講生は制作コースから、制作コース受講生は企画コースから、1講座を無料受講できます。
- 聴講制度 | 2年間通われた方は、1コマごとに有料聴講できます。(卒業後2年間有効)
- シンクフレンズ制度 | 卒業後、積極的にまち会社の企画運営等への参画、サポートをされた方を対象に、1年間3講座まで有料聴講できます。

説明会

Think Schoolってどんな学校? にお答えする説明会を開催します。お気軽にご参加ください。

① 4月25日(土) | 14:00～15:00 ② 5月23日(土) | 14:00～15:00 (2日間とも同じ内容です)

会場 | 札幌駅前通まちづくり株式会社 | 札幌市中央区北3条西3丁目1 札幌駅前藤井ビル8階

※下記のお問合せ先にご予約ください。個別対応も可能です。

お申込み・お問合せ

事務局 | 一般社団法人PROJECTA

011-211-4366(テラス計画) | info@projecta.or.jp | www.thinkschool.info/



割引制度

- 早割 | 2020年3月31日(火)までにお申し込みされた方は、入学金10,000円(税別)を免除!
- 学割&U-20割 | 学生および20歳以下の方は64,000円(税別)で受講可能です。(各コース先着5名)
- W割 | 企画コースと制作コースを同時受講の方は、各コース96,000円(税別)で受講可能です。
- 継続割 | 卒業生は、2年日以降各コース96,000円(税別)で受講可能です。(別コース受講可能)
- シニア割 | 60歳以上の方は入学金10,000円(税別)を免除!